

証券コード：9179

K

"K" LINE KINKAI

株主通信 vol.10 2014年 9月



GALLEON

川崎近海汽船株式會社

株主の皆様へ



CONTENTS

- 株主の皆様へ 1
- 財務ハイライト 2
- 部門別営業概況 3
- 船舶紹介 4
- 特集 拠点紹介 5
- トピックス 7
- 連結財務諸表 9
- 会社概要・株式の状況 10
- 株主メモ 裏表紙

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

第49期第2四半期の営業概況ならびに事業内容をご理解いただくために、株主通信をお届けいたします。

当第2四半期連結累計期間（2014年4月1日から2014年9月30日まで）におけるわが国経済は、企業収益に改善の兆しがみられるなど景気は緩やかな回復基調が継続しているものの、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動により、個人消費や設備投資の動きは鈍く、先行き不透明な状況で推移しました。

海運業界を取り巻く環境は、米国や欧州等の先進国で景気は緩やかに回復している一方、アジア地域では景気は総じて足踏み状態となっており、当社近海部門の市況は、引き続き低迷しました。

こうした情勢下、当社の第2四半期連結累計期間の売上高は234億78百万円となり前年同期比3.7%の増収となりました。営業利益は8億3百万円となり前年同期比36.3%の減益、経常利益は8億5百万円となり前年同期比35.5%の減益となりました。特別利益を49百万円、特別損失を14百万円計上した結果、四半期純利益は5億11百万円となり前年同期比39.2%の減益となりました。

中間（第2四半期末）配当につきましては、1株当たり5円とさせていただきますことになりました。期末配当につきましても、1株当たり5円を予定しており、年間配当は1株当たり10円となる予定です。

当社の経営環境は、依然厳しい状態におかれています。各部門にわたって一層の業績向上を目指す所存です。

株主の皆様におかれましても、引き続き変わりないご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長

石井繁礼

財務ハイライト

当第2四半期の業績結果

連結業績

売上高	234億78百万円 (前期比+ 3.7%)
営業利益	8億 3百万円 (前期比-36.3%)
経常利益	8億 5百万円 (前期比-35.5%)
純利益	5億11百万円 (前期比-39.2%)

連結財務状況

総資産	427億円
純資産	227億89百万円

連結キャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フロー	25億15百万円
投資活動によるキャッシュ・フロー	△19億 9百万円
財務活動によるキャッシュ・フロー	△13億 4百万円

中間（第2四半期末）配当金

1株当たり5円

通期の業績予想

連結業績

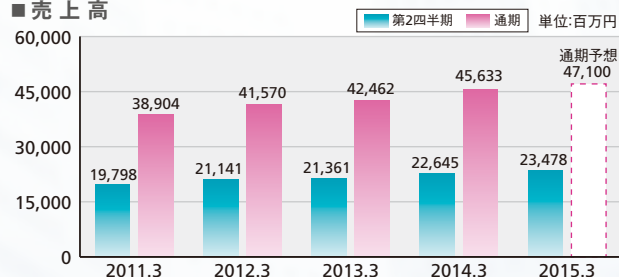
売上高	471.0億円
営業利益	21.0億円
経常利益	20.0億円
当期純利益	13.0億円

(下期の想定円ドル為替レート 1ドル=105円)

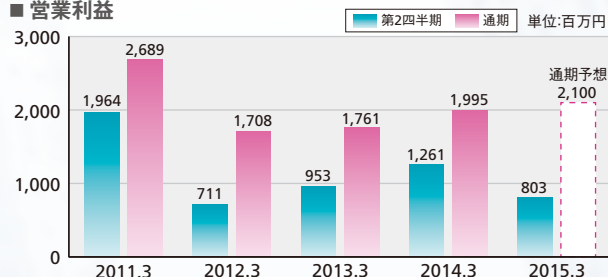
年間配当金

1株当たり10円(中間(第2四半期末)5円・期末5円)を予定

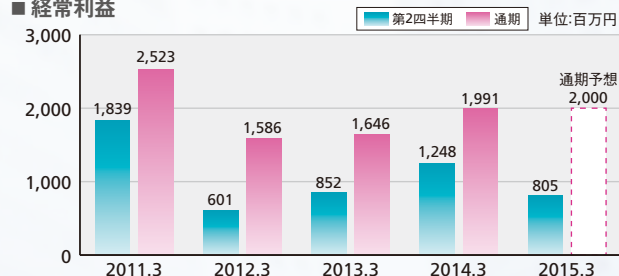
■売上高



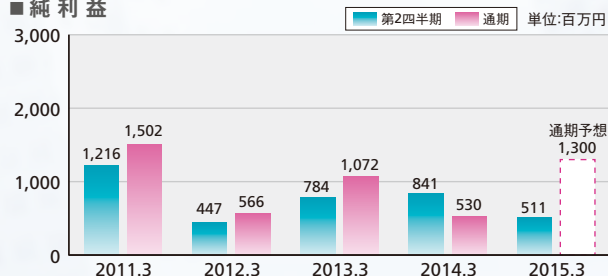
■営業利益



■経常利益



■純利益



部門別営業概況

近海部門 売上高

87億37百万円

部門別
構成比(%)
37.2%

バルク輸送

鉄鋼、セメントメーカーの堅調な生産活動を背景に、日本向け石炭輸送では高稼働を維持し、前年同期比で輸送量は増加しました。また、本年6月には28,000トン型新造船を就航させ、遠洋区域での業容拡大を図りました。

木材輸送

国内の新築住宅着工の低迷により合板の輸入量は減少しましたが、積極的な営業活動により当社のマレーシア積合板の輸送量は前年同期を上回る結果となりました。チップ輸送では、市況の低迷により輸送量は減少しました。

鋼材・雑貨輸送

インドネシア向けの輸送量は前年同期を上回りましたが、主な仕向地であるタイ向けでは同国における鋼材需要の低迷から、前年同期に比べ輸送量は減少しました。

当部門の売上高は、上述の石炭輸送の高稼働に加え円安基調の継続により87億37百万円となり、前年同期に比べ8.5%の増収となりましたが、市況の低迷により営業損失は前年同期4億29百万円から、当第2四半期は5億86百万円となりました。

内航部門 売上高

147億38百万円

部門別
構成比(%)
62.8%

不定期船輸送

石灰石及び石炭の各専用船は前年同期比で輸送量の減少はあるものの安定的に稼働し、小型貨物船は国内景気の緩やかな回復に伴い市況は堅調に推移しました。

定期船輸送

消費税率引き上げ後、一時的に駆け込み需要の反動減はあったものの、苫小牧航路に大型新造船を投入したことにより輸送効率が改善され、全体での輸送量は前年同期並みとなりました。

フェリー輸送

消費税増税後の消費低迷などにより、トラックの輸送量は減少し、旅客・乗用車でも、燃料価格の高騰や高速料金の値上げにより輸送量は減少しました。

当部門の売上高は、147億38百万円となり前年同期に比べ1.2%の増収となりましたが、所有船の入渠による費用がかさみ、営業利益は13億89百万円となり前年同期に比べ17.1%の減益となりました。

船舶紹介

近海部門

計**28**隻

バルク輸送

ロシア、ベトナム、インドネシア、豪州から石炭、タイから石膏や砂糖を日本、韓国などへ輸送しています。

木材輸送

マレーシア、インドネシアから日本向けに合板製材、パプアニューギニア諸島から日本、中国向けに南洋材、ベトナム、マレーシアなどから日本、中国向けにチップを輸送しています。

鋼材・雑貨輸送

日本からタイ、香港、シンガポール、マレーシア、インドネシアなどを中心に東南アジアへ向けて鋼材、機械、プラントなどを輸送しています。

CHIKUSA



MARINE DIAMOND



内航部門

8隻

不定期船輸送

鉄鋼副原料やセメント原料となる石灰石、電力（火力発電）用石炭のほか、石膏、国産材、木材チップなど多様な物資を日本各地に輸送しています。

8隻

定期船輸送

貨物を積載したトレーラーやトラック、建設機械、商品乗用車等の無人航送を行う「RORO船」定期航路を運航し、主に関東から北海道間、関東から九州間でさまざまな品物を効率的に輸送しています。

4隻

フェリー輸送

八戸と苫小牧の間を毎日4便運航し、本州と北海道を最短ルートで結ぶ重要基幹航路として、宅配貨物や生鮮食料品など人々の暮らしに必要な物資を輸送しています。

JP COSMOS



勇王丸



シルバーエイト



拠点紹介 北海道支社

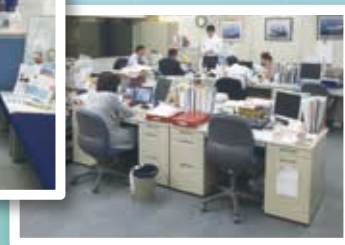
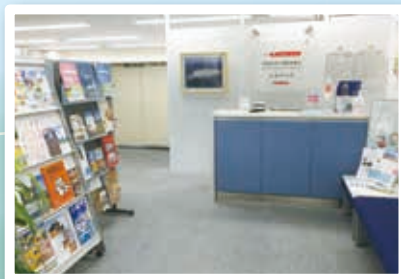
北海道全域を網羅する最重要拠点

当社は、貨物営業部、旅客営業部の2部門で北海道全域を網羅する営業を展開しております。

貨物営業部では、RORO船及びフェリーの船積貨物の集荷営業を行っております。主として、北海道発の農産物・紙製品等の主要貨物の他、一般貨物や新規貨物の獲得を図るべく集荷営業を行っております。特に、苫小牧―常陸那珂航路では、去年は“ほっかいどう丸”、本年は“北王丸”を投入し船隊整備を行いました。船腹量増加に伴い、さらなる新規貨物獲得に力を注いでおります。

旅客営業部は、八戸―苫小牧航路の乗用車・旅客の企画及び集客を主とし、東北・北海道の旅行代理店へ企画の提案、各観光協会・観光コンベンション協会とタイアップし、旬の情報を提案する等の営業を展開しております。旬の情報は四季報とし、春・夏・秋・冬に東北・北海道の観光情報を提案しております。直近のサービスとしては、札幌―八戸（フェリー + バス）の“なかよしきっぷ”を盛岡まで延長し、2013年12月よりサービスを開始しました。インターネットでご予約頂いたお客様（乗用車・旅客・オートバイ・自転車）を対象に、大変お得なプラン「ふくふく30」を発売し好評を博しております。このサービスは2014年10月から2015年1月末までのご利用になります（詳細は当社ホームページ内にてご確認ください）。

北海道全域の重要拠点として、さらなるサービス向上を目指して参ります。



北海道支社

住所 北海道札幌市中央区北3条西3丁目1番地47 ヒューリック札幌NORTH33ビル9F

TEL (011)241-8268 FAX (011)222-0593

■北海道支社の歩み



1992年4月

シルバーフェリーと合併し札幌事務所を北海道支社に改組

2006年6月

共同運航していた東日本フェリー(株)の運航便を引き継ぎ、八戸～苫小牧航路が1日4便体制に

2009年10月

北海道支社は現在の「ヒューリック札幌NORTH33ビル」に移転

2009年8月

関東～東京～苫小牧航路を休止し、常陸那珂～苫小牧航路を1日2便体制に

近年の取り組み

これまでのフェリー旅客サービスの展開の中で寄せられたお客様のニーズに応えるべく、2012年4月に“シルバープリンセス”、2013年6月に“シルバーエイト”が就航。“シルバープリンセス”はピンク色を基調とし、2等室を全席指定にした他、女性専用のレディースルームやベットが同伴可能な個人・その他ベツルームを増設。若い女性やお子様連れにも安心感を持ってもらえる様にしました。“シルバーエイト”は和モダンのテイストでおちつきのある船内とし、2等全席指定、女性専用ルーム・ベットと一緒に泊まれる部屋は同様に継承し、利用増につながっています。

LCCの台頭、燃料油価格高騰などによるモードの変化に対応し集客を増強すべく北海道支社はそれまでの営業部を廃し、フェリーとRORO船のニーズを探り、きめ細かいサービスを提供する事で更なる需要を掘りおこせるとして、2013年4月に貨物営業部と旅客営業部を新設しました。



トピックス

TOPICS 1

“北王丸”就航

新造RORO船“北王丸”が本年8月19日（火）、澄み渡る夏空の下、常陸那珂港へ初入港し無事就航いたしました。本船は、新型電子制御エンジンの採用をはじめ、地球環境保護に貢献すべく、時代に求められる最新型省エネ船として、内海造船株式会社因島工場で建造され、1969年（昭和44年）に東京―苫小牧航路に初代“北王丸”が本邦初のRORO貨物船として就航、海上物流の近代化の先駆けとなって以来5代目となる、当社の伝統ある船名を引き継いだ船です。2013年2月に就航の同型姉妹船“ほっかいどう丸”と共に、益々便利になった常陸那珂―苫小牧航路がさらに発展するよう、関係者一同鋭意努めてまいります。



船舶概要

- 全長 173.10m
- 全幅 27.00m
- 総トン数 11,492t
- 航海速度 22.6ノット
- 車積積載能力 12mシャーシ160台、乗用車100台



TOPICS 2

ホームページリニューアル

本年8月にホームページのリニューアルを実施しました。株主通信ではお伝えしきれないプレスリリース、IR資料のダウンロードなど、さまざまな情報を掲載していますので、ぜひ一度ご覧ください。

<http://www.kawakin.co.jp/>



TOPICS 3

フェリーの安全対策について

当社は、安全運航を経営ビジョンのひとつに掲げています。「安全管理規程」や日本の内航船へは強制されていない「ISMコード（国際安全管理規則）」などに則り、徹底した安全対策に取り組んでいます。

具体的には、海象に応じた十分な固縛を施し、車両の転倒事故が発生しないよう事前の対策に努めています。救命筏、シュータ、支援艇に関しましては、定期的に点検を行い、また乗組員が迅速に避難誘導を行えるよう、「非常配置表」を設置しています。そして、防火・防水、旅客の誘導を含めた船外退避訓練を毎月15日に実施し、安全レベルの維持に日々取り組んでいます。

当社では、これからもお客様の安全を最優先に安全運航に全力を尽くしてまいります。



表紙の船

The Ship on the Cover

“GALLEON”

船舶
概要

全長 169.37m
航海速度 14.0ノット

総トン数 17,027t
積載重量トン数 28,294t

本年6月4日(水)、スモールハンディ船“GALLEON”が竣工いたしました。
当社外航営業部では、すでに“MAGNOLIA ACE”(2010年竣工)、“LAUREL ACE”(2013年竣工)の同型船2隻を運航しておりますが“GALLEON”はその船隊に加わる3隻目となります。

同船隊は、東南アジアに限らず、遠洋区域での新規貨物の獲得に向けた営業を強化し、就航エリア拡大を図ります。



連結財務諸表

第2四半期連結貸借対照表(要約)

(単位：千円)

資産の部	当第2四半期末 2014年9月30日現在	前期末 2014年3月31日現在
流動資産	14,256,690	14,425,246
固定資産	28,443,611	27,889,765
有形固定資産	26,491,893	25,952,475
無形固定資産	92,179	95,682
投資その他の資産	1,859,538	1,841,606
資産合計	42,700,302	42,315,012
負債の部	当第2四半期末 2014年9月30日現在	前期末 2014年3月31日現在
流動負債	9,201,092	8,098,528
固定負債	10,709,372	11,910,833
負債合計	19,910,465	20,009,361
純資産の部	当第2四半期末 2014年9月30日現在	前期末 2014年3月31日現在
株主資本	22,401,812	22,036,349
資本金	2,368,650	2,368,650
資本剰余金	1,248,849	1,248,849
利益剰余金	18,812,181	18,446,355
自己株式	△27,867	△27,505
その他の包括利益累計額	387,276	268,654
その他有価証券評価差額金	239,615	195,475
繰延ヘッジ損益	△13,925	—
土地再評価差額金	130,277	139,943
為替換算調整勘定	100,230	11,070
退職給付に係る調整累計額	△68,922	△77,835
少数株主持分	748	646
純資産合計	22,789,836	22,305,650
負債純資産合計	42,700,302	42,315,012

第2四半期連結損益計算書(要約)

(単位：千円)

	当第2四半期 累計期間 自 2014年4月1日 至 2014年9月30日	前第2四半期 累計期間 自 2013年4月1日 至 2013年9月30日
売上高	23,478,387	22,645,736
売上原価	20,928,009	19,605,849
売上総利益	2,550,377	3,039,886
販売費及び一般管理費	1,747,057	1,778,287
営業利益	803,320	1,261,599
営業外収益	77,608	84,330
営業外費用	75,483	97,482
経常利益	805,446	1,248,447
特別利益	49,840	174,770
特別損失	14,779	98,746
税金等調整前四半期純利益	840,506	1,324,472
法人税、住民税及び事業税	393,813	315,450
法人税等調整額	△64,874	168,247
少数株主利益又は少数株主損失(△)	101	△291
四半期純利益	511,466	841,066

第2四半期連結キャッシュ・フロー計算書(要約)

(単位：千円)

	当第2四半期 累計期間 自 2014年4月1日 至 2014年9月30日	前第2四半期 累計期間 自 2013年4月1日 至 2013年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,515,553	3,855,204
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,909,913	1,017,294
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,304,587	△1,742,101
現金及び現金同等物に係る換算差額	21,904	23,747
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△677,043	3,154,145
現金及び現金同等物の期首残高	6,933,391	3,054,978
連結子会社の決算期変更に伴う現金及び現金同等物の期首残高増減額(△は減少)	△98,479	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	6,157,868	6,209,124

記載金額は千円未満の端数を切り捨てて表示しております。

会社概要 (2014年9月30日現在)

社名	川崎近海汽船株式会社 KAWASAKI KINKAI KISEN KAISHA,LTD.
設立	1966年(昭和41年)5月1日
本社	東京都千代田区霞が関三丁目2番1号
資本金	23億6,865万円
代表者	代表取締役社長 石井 繁礼
従業員数	385名
主な事業内容	海上運送事業 海運仲立業 港湾運送事業および倉庫業 貨物運送取扱事業 海運代理店業

役員	代表取締役社長 石井 繁礼
	専務取締役 上杉 芳人
	専務取締役 赤沼 宏
	常務取締役 高田 雅彦
	常務取締役 友井 彰彦
	常務取締役 杉本 利文
	取締役 寅谷 剛
	取締役 小山 卓三
	取締役 川崎 誠司
	取締役 馬場 信行
	取締役 川戸 淳
	取締役 佐野 秀広
	監査役 島村 康雄
	監査役(非常勤) 堤 則夫
	監査役(非常勤) 生和 勉
	監査役(非常勤) 鈴木 修一

株式の状況 (2014年9月30日現在)

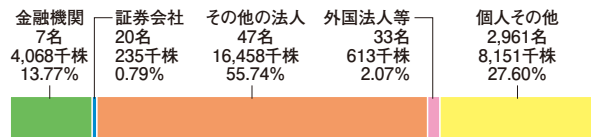
発行済株式の総数 29,358,155株 (自己株式166,845株を除く)

株主数 3,068名 (前期末比 8名増)

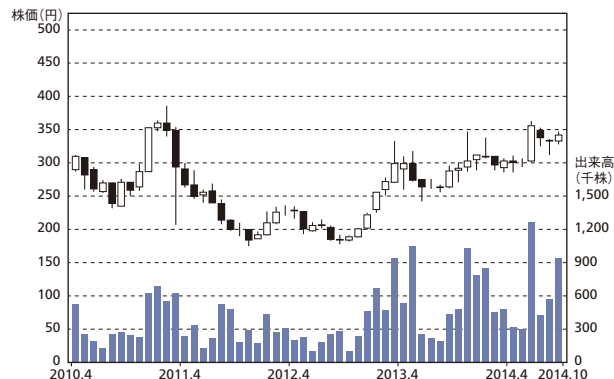
大株主(上位10名)

株主名	当社への出資状況	
	株式数 (千株)	持株比率 (%)
川崎汽船株式会社	14,040	47.55%
東京海上日動火災保険株式会社	1,840	6.23%
損害保険ジャパン日本興亜株式会社	864	2.92%
三井住友海上火災保険株式会社	598	2.02%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	594	2.01%
川崎近海汽船従業員持株会	384	1.30%
北海運輸株式会社	350	1.18%
小池 恒三	310	1.04%
株式会社栗林商会	304	1.02%
株式会社ダイトーコーポレーション	278	0.94%

株式の所有者別状況



株価及び株式売買高の推移 (2014年9月末現在)



川崎近海汽船株式會社

東京都千代田区霞が関三丁目2番1号 (〒100-0013)

TEL:03-3592-5800 FAX:03-3592-5911

株主メモ

■事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
■定時株主総会	6月
■同上総会権利行使株主確定日	3月31日
■配当金受領株主確定日	3月31日
■中間(第2四半期末)配当受領株主確定日	9月30日
■基準日	上記確定日のほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めます。
■株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
■特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
■郵送物送付先 (電話照会先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル) 取次事務は三井住友信託銀行株式会社の本店および全国各支店でっております。
■公告方法	電子公告により行います。公告掲載URL (http://www.kawakin.co.jp/) ただし、やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
■住所変更、単元未満株式の 買取等のお申出先について	株主様の口座のある証券会社にお申出ください。 なお、証券会社等に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、 特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。
■未払配当金の支払について	株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。
■配当金計算書について	配当金お支払いの際にご送付しております「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。確定申告をなされる株主様は大切に保管願います。 ただし、株式数比例配分方式をご選択いただいている株主様につきましては、源泉徴収税額の計算は証券会社に行われます。確定申告を行う際の添付資料につきましては、お取引の証券会社にご確認をお願いいたします。

当社IRサイトをご活用ください。→ <http://www.kawakin.co.jp/ir/>

当社ホームページでは、プレスリリースや決算情報等を掲載しております。ぜひご活用ください。



古紙配合率70%再生紙を使用しています